

寸言

株式会社プロテリアル（旧 日立金属株式会社）
代表取締役 社長執行役員 CEO（最高経営責任者）
シヨーン・スタック



新たな価値の創造へ

当社は、2023年1月に社名を「日立金属株式会社」から「株式会社プロテリアル」に変更し、新しい一歩を踏み出しました。

新社名であるプロテリアルは、“PRO” + “MATERIAL” から作られています。PROが表すのはProfessional、Progressive、Proactiveの3つの言葉で、それぞれに「期待を超える仕事」「挑戦し続ける意志」「主体的な姿勢」という意味を込めています。“MATERIAL” はこれら3つの“PRO” に支えられた独創的な技術から生み出される、高機能材料を意味しています。質の高さにこだわった高機能材料で、引き続き航空宇宙工業に貢献していきたいと考えています。

当社の特殊鋼「ヤスキハガネ」は、日本古来の製鉄法であるたたら製鉄を源流としています。たたら製鉄は、毎年1、2月に公益財団法人日本美術刀剣保存協会が主催する日刀保たたらとして鳥根県仁多郡奥出雲町において操業が続けられており、当社は操業の支援を行っています。山陰地方で産出される良質な砂鉄と木炭から生産された最高品質の玉鋼たまはがねは、日本刀の材料として日本美術刀剣保存協会より全国の刀匠に供給されています。

社長に就任した翌月となる今年2月に、早速この日刀保たたらを直接見ることができました。日本の伝統的なモノづくりは神秘的かつ芸術的であり、操業に携わる方々のプロフェッショナルリズムや過酷な作業にチームワークで臨む姿に非常に感銘を受けました。日刀保たたらは極めて重要な文化財であるだけでなく、その優れた技術や鉄づくりの精神など、現代の私たちが学ぶべきことが多くあると強く感じました。当社はこの技術

や精神を大切にしながら、独創的な技術と製品のみならず、ビジネスプロセスや人材においても高い質の追求につなげ、ヤスキハガネの新たな価値を創造していきます。

ヤスキハガネは、金型材料である「工具鋼」、ピストンリング材やCVTベルト材など自動車部品材を中心とする「産機材」、有機ELパネル背面板やリードフレーム材などの「電子材」を三本柱として長年ビジネスを続けてきました。そして現在、新たな四本目の柱として準備しているのが、航空機エンジン用部材を中心とする「航空機エネルギー材」です。

要求される性能や品質が非常に高いだけでなく、高温でも高い強度を保つ航空機エンジン用部材を、塑性変形させて製造するのは至難の業です。また認定取得にも高いハードルがあります。しかし、お客様とも協創しながら、要求やハードルをクリアすることができれば課題の解決に大きく貢献できると考えています。そのために安来工場（鳥根県安来市）の大型真空誘導溶解炉、1万トン自由鍛造プレスや桶川工場（埼玉県桶川市）の大型リングミルなど、最新鋭の大型設備を導入し、対応を進めています。また経済産業省、岡山県の支援や株式会社神戸製鋼所など国内企業の共同出資により日本エアロフォージ株式会社を2011年に設立して世界最大級の5万トン型鍛造プレスの立ち上げを進めてきました。

既にいくつかの航空機エンジン用の部材の認定を取得し、生産を開始しています。今後も積極的かつ計画的に投資を進め、お客さまの期待に応えていくことで持続可能な社会を支える高機能材料会社をめざしていきます。